

榮光

738号

2021年9・10月
日本基督教団
田園調布教会
伝道部発行

〒145-0071
東京都大田区田園調布
3-34-18
電話 03-3721-2811
FAX 03-3721-2814
<http://den-church.jp/>

慰めの教会

コリントの信徒への手紙Ⅱ一章四節

牧師 高橋 和人

教会を特別なものにしていくものにはそこに慰めがあることです。信仰生活を続けることができるのは慰めを受けているからです。聖書に慰められ、礼拝に慰められ、祈りによって慰められます。教会の愛の業も慰めを持っていけばこそ教会らしいものになります。それは同時に教会もまた最も必要としているものです。教会も様々なことで傷つきます。わたしたちの教会は九〇周年を迎えましたが、その間にも戦争の傷、教会紛争の傷を経験し、今まさにコロナウイルスによる疫病の危機の中に置かれています。

この手紙をパウロが書かなければならなかったのは、パウロとコリントの教会が互いに慰めを必要としていたからです。それは双方とも厳しい状態にありその危機を乗り越えなければならぬためでした。

パウロは自分が開拓伝道を行い、育てたコリントの教会を去ってエフェソの教会の伝道に向かったのですが、そこを離れることが難

しくなり、コリントの教会に帰って来るという約束を果せないでいました。そのためにパウロの伝道者としての在り方に批判をするものたちが現れて、教会は分裂の危機を迎えていました。

生まれたばかりの教会です。頼りになるものは多くはなかった。会堂もなく、信仰理解も勝手な信仰を主張するものたちにかき回され、パウロを頼らねばならず、聖餐式や礼拝もまだ制度も確立していない状態です。あらゆるものが未熟だったのです。

しかしそういう時に教会が頼るべきものは昔も今も変わりがないと言えます。それは神の御心に頼るということです。

三〇七節には慰めという語が九回と集中的に登場する。手紙の最初にこれほど慰めが語られているのは、この手紙の性格を表している。パウロはどの手紙でも自分は福音を語ることを旨としていました。つまり救いを伝えるようとするのです。慰めも福音に関わること

として語られているのです。慰めは旧約聖書では悔い改めるという語と関係があります。慰めと悔い改めが関係するのは、神の前にあるためです。真の慰めは神から与えられるものです。

そうならば、わたしたちは全く神の前にふさわしくないものです。それが神の前に立つには自分を振り返り、不信仰で神と共に生きることをしない自分を知り、悔い改めることがなければなりません。そして、礼拝は神の前に立つところです。それは神の前に自分を振り返り神に立ち帰るところとなります。

わたしたちは短縮した礼拝を捧げていますが、普段は詩編の交読をします。教会によっては交読を悔い改めの七つの詩編を読みます。また、交読文を悔い改めとして式次第に入れているところがあります。悔い改めは神が共にいてくださることのために必要なことです。

「神はあらゆる苦難に際して、わたしたちを慰めてくださる」と言われます。新約の慰めは「そば」と「呼ぶ」という字でできている。それはそばにいて同じように叫ぶ、味方を呼ぶことになる。

その味方が神であって、側にいて味方となつてくださる。それはわたしたちの不信仰と罪を赦し、罪の結果である死から救ってくださったためです。救われたものは自分の罪を知ること、むしろ主がそこに働いてくださる近さを知るようになるのです。

苦難の原因は突き詰めれば人の罪から始まります。そしてその苦しみは罪を呼ぶことが多いのです。神を恨み、人を恨み赦せなくなるからです。人は苦しくなると神様も信仰もそっちのけになってしまうほど弱いのです。しかし、わたしたちが知っていることは、